

<シェリル・メイナー大佐の2021年1月31日のビデオメッセージ>

私は若い時、趣味でアーチェリー（洋弓）をやっていました。最初、父から教えてもらい、だんだん上達して、学校から帰ると毎日やっていたのですが、その後、勉強が忙しくなると、弓から離れてしまいました。ある日、思い立って弓を取り出し、矢を放ちました。ところが、手入れをずっと怠っていたために、弓の表面にできた割れ目で指を切る怪我をしてしまいました。私たちの霊的な成長にとって、祭壇に近づくことは大切ですが、祭壇の手入れは出来ているでしょうか？ 神様はモーセに、祭壇を作るように命じられました。そこは聖なる場所となり、そこに神様が住まわれる、と言われたのです。出エジプト記 25:8-9 に「わたしのために聖なるところを彼らに造らせなさい。わたしは彼らの中に住むであろう。わたしが示す作り方に正しく従って、幕屋とそのすべての祭具を作りなさい」とあります。しかし、イスラエルの民は、祭壇の手入れを怠ってしまいました。その結果、神との交わりが断ち切られ、悲惨な結果を経験したのです。私たちはイエス・キリストによって新約の恵みにあずかり、いまは信じる者の身体が聖霊の宿ってくださる神殿とされています。だからこそ、神と交わるための時間を取り分けることは、とても大切です。忙しさのために、神様と共に過ごす時間をおろそかにしてしまうとき、私たちはイスラエルの民のように偶像礼拝に陥ってしまい、神様に最善をささげることを止めて、神ではないものに心を奪われて行く結果となります。ですから、私たちは自分の心の中の祭壇を整えて、聖霊の火を燃やし続けていただくことが必要です。ダビデ王は臨終にあたり、自分の後を継いで神殿を建設しようとしていた息子のソロモンに、こう遺言を残しました。歴代誌上 28 章に「わが子ソロモンよ、この父の神を認め、全き心と喜びの魂をもってその神に仕えよ。主はすべての心を探り、すべての考えの奥底まで見抜かれるからである。もし主を求めるなら、主はあなたに御自分を現してくださる」とある通りです。ここでは神を第一とし、全き心をもって神を求めなさい、と勧められています。そうする時に、私たちと神との関係は深められ、神を深く知り、また、自分自身を深く知ることができるようになります。もちろん、私たちが救われるのは、神様の恵みによってです。しかし、生活の中で神様を第一として行くためには、わたしたちの努力も必要です。私は弓の手入れを怠っていたために、怪我をする結果になりました。もし私たちが、自分と神様との関係を保つことを怠ってしまったら、神様から離れてしまうことになります。どうか、あなたが心から神様を求め、あなたの心がいつも聖霊の火によって燃やされることができますように。